

平成27年度学生による地域フィールドワーク研究助成事業

研究成果報告書

- ・富山大学経済学部
- ・所属ゼミ 中村真由美ゼミ
- ・指導教員 中村真由美
- ・代表学生 神出大五
- ・参加学生 厚味勇輝、北村佳祐、瀬瀬竜太、沢田健太、福田祥子、松原誉、桃津優里、吉田鉄生、牧田航平

【研究課題名】 大学卒業後の地域定着意欲に関する研究

1. 課題解決策の要約

県外出身の富山大学生の富山定着意欲には、富山における満足度（地域活動、自然環境、遊ぶ場所）が影響していた。これらの満足度が高い人ほど、富山での就職を希望する傾向が見られた。さらに、出身地域の平均現金給与額が富山より大きい場合ほど、富山定着意欲が低くなっていた。課題解決策としては、まず地域活動、自然環境、遊ぶ場所についての学生の富山満足度を高める必要がある。富山の自然を満喫するにはコストがかかる。地域活動や遊ぶ場所についても車がないと参加が難しい（実際、車がない学生は地域活動や遊ぶ場所についての富山満足度が低い）。このことから、お金のない学生でも、安く交通機関にアクセスすることができ、自然や地域活動を楽しめるような支援が必要である（例えば、学生のためのレンタカー割引を行う。学生のための安価なバスサービスを設ける。黒部アルペンルートの交通費は高額であるが、県内の大学生のために割引を行うなど）。また、現在進行中の富山市中心街の再開発は、遊ぶ場所（アミューズメント施設）を増やすという意味で、問題の解決に有効であると考えられる。地域活動については、富山マラソンやおわら風の盆の様な大きなイベントに学生が参加しやすくするよう、学内でもPR活動を行い、参加するための交通手段を提供する。また出身地域の平均現金給与額と富山との差が富山定着意欲に影響していたことから、富山県内の産業を振興し、県民所得を上げて就職先としての富山の魅力を向上させることが重要である。

2. 調査研究の目的

富山大学の学生が就職を機に富山から離れているという現実がある。平成26年度の富山大学の地域別就職状況では富山県に就職した人が全体の38.7%という結果になった。地方

創生が求められている現代社会では、平成25年11月に文部科学省が提示した国立大学改革プランにおいて、国立大学を地域活性化の中核的拠点となることを目指すと掲げられている。このような状況から、地域に貢献できる人材を確保することは最重要課題と見なされている。そこで、現在、富山大学に在籍している学生の就職希望場所（富山県内か富山県外か）の決定要因を検証した。

3. 調査研究の内容

調査方法

ネットリサーチアンケートサービス「Survey Monkey」を利用したアンケート調査で入学経路別に見た将来の展望、大学の環境満足度、富山県の利便性、など質問を学生にアンケート方式で回答してもらう。それによって回収できたデータをクロス表分析や回帰分析で調査を行った。（回収数 217 件）

調査対象

現在富山大学経済学部にて在籍している学生

4. 調査研究の成果

表 1：県内就職を希望するかどうかの規定要因（2項ロジスティック回帰）

	(1)全体			(2)県外出身者のみ		
	B	標準誤差	Exp(B)	B	標準誤差	Exp(B)
定数	-2.929 †	1.654	.053	-8.788 *	3.645	.000
富山に関する満足度						
友人関係	.315	.411	1.370	-.614	.893	.541
人間関係	-.489	.451	.613	-.095	.844	.909
地域活動	.460 †	.244	1.585	2.134 *	.851	8.450
景観	-.413	.381	.662	-1.011	.900	.364
自然環境	.548	.403	1.729	1.885 *	.921	6.589
町の雰囲気	.339	.383	1.404	.579	.777	1.784
町の便利さ	.108	.319	1.114	-.298	.682	.742
文化・芸術	-.031	.316	.970	-.745	.749	.475
遊ぶ場所	.205	.287	1.227	.985 †	.589	2.679
図書館等の公共施設	-.324	.305	.723	-.007	.690	.993
車やバス等の公共施設	-.292	.265	.747	-.403	.571	.668
出身地						
富山出身	3.061 ***	.532	21.345			
その他北陸出身	-.913	.789	.401			
その他地域出身（参照）						
出身地と富山の現金給与額の差	-.028 †	.015	.973	-.073 *	.033	.929
-2 対数尤度	144.050 ^a			46.031 ^a		
Cox-Snell R2 乗	.495			.240		
Nagelkerke R2 乗	.669			.449		
カイ 2 乗	148.199 ***			25.769 *		
自由度	14.000			12.000		
N	217			94		

† p<. 10; *p<. 05; **p<. 01; ***p<. 001

表 2:「日常的に自動車が使えるかどうか」と「地域活動満足度」

			富山満足度_地域活動					合計
			全くない	あまりない	どちらでもない	少しある	とてもある	
日常的に自動車が使えるか	使えない	度数	25	29	47	27	8	136
		%	18.40%	21.30%	34.60%	19.90%	5.90%	100.00%
	使える	度数	9	14	22	32	12	89
		%	10.10%	15.70%	24.70%	36.00%	13.50%	100.00%
合計		度数	34	43	69	59	20	225
		%	15.10%	19.10%	30.70%	26.20%	8.90%	100.00%

$$\chi^2_{(4)}=13.829 \quad p<.01$$

表 3 :「日常的に自動車が使えるかどうか」と「遊び場の満足度」

			富山満足度_遊び場					合計
			全くない	あまりない	どちらでもない	少しある	とてもある	
日常的に自動車が使えるか	使えない	度数	35	67	18	11	4	135
		%	25.90%	49.60%	13.30%	8.10%	3.00%	100.00%
	使える	度数	11	42	26	8	4	91
		%	12.10%	46.20%	28.60%	8.80%	4.40%	100.00%
合計		度数	46	109	44	19	8	226
		%	20.40%	48.20%	19.50%	8.40%	3.50%	100.00%

$$\chi^2_{(4)}=12.075 \quad p<.05$$

表の説明

表 1 は回答者全体と富山県外出身者について、県内就職希望の規定要因を 2 項ロジスティック回帰分析により検証した。従属変数には「県内就職を希望しているかどうか」という質問項目を用い、独立変数には富山県に対して満足している点 (5 段階評価) や出身地域、および、出身地域と富山の平均現金給与額の差を投入した。

全体と県外出身者、どちらの分析結果においても、地域活動に関する満足度が上がれば富山県内で就職を希望する見込みが有意に高くなっていた (「全体」は 10%水準で有意)。他には県外出身者のみに絞った分析では、自然環境と遊ぶ場所について満足度が上がれば富山県内での就職を希望する見込みが高くなっていた (ただし、遊ぶ場所については 10%水準で有意)。また出身地 (県) の平均所得が富山県を上回るほど県内就職を希望する見込みは低くなっていた。

では、地域活動満足度や遊ぶ場所の満足度は何によって決まるのだろうか。表2と3は「日常的に車が使えかどうか」と「地域活動満足度」および「遊ぶ場所の満足度」の関係をクロス表と独立性の検定により分析したものである。独立性の検定の結果はともに有意であった。

行パーセンテージを見ると、車を使えないと回答した学生は地域活動の満足度が「少しある」または「とてもある」の合計が25.8%に対し、車を使えると回答した学生は49.5%であった。また同様に遊び場に対する満足度では「少しある」または「とてもある」の合計が、車を使えない学生は11.1%で、車を使える学生は13.2%と大きな差は出なかった。しかし、「全くない」と答えた学生は車が使えない者が25.9%に対し車を使える学生は12.1%であった。つまり、車にアクセスがあるかどうかによって、「地域活動満足度」や「遊び場の満足度」が影響を受けていた。

5. 調査研究に基づく提言

学生の地域定着の問題は「地域活動満足度」「自然環境満足度」「遊ぶ場所の満足度」「出身地との賃金差」の4つの点で改善すれば良い事が分かった。地域活動は我々学生にとってはイベント等がメインになると考えられる。富山にはおわら風の盆といった全国的に有名な祭りがあるが、我々学生の中にはそれ自体を知らない者や、どこで開催しているのかわからない者が少なくない。大学内でそれらのイベントのPRや交通手段の提供などをして、周知を図れば効果的ではないだろうか。昨年の富山マラソンの様な、新しいイベントの開催も良い影響を与えるだろう。

自然環境に関して、富山県には立山や黒部ダム、雪の大谷の様な自然を感じる事が出来る観光スポットが多く存在するが、それらの多くは県外もしくは国外の観光客へ向けたPRが多く、またツアー料金も決して気軽に利用できる程安価ではない。学生へ向けたPR活動や安価なツアーの実施など、より学生が富山の自然に触れやすい施策を講じるべきだと考えられる。

遊ぶ場所に関しては、富山にはアミューズメント施設が少なく、金銭的な余裕よりも時間的な余裕が大きい学生にとっては手ごろな金額で娯楽を享受できる施設の充実が街の魅力に大きく関わってくる。現在富山市の中心街の再開発でシネマコンプレックス等の建設が進んでいるが、これらの完成は地域定着に一役買ってくれるのではないだろうか。

最後に出身地との賃金差であるが、これについては富山全体の経済基盤の向上が求められる。企業誘致や最低賃金の底上げなど、難しいことではあるが県内の経済状況が良くなれば学生の地域定着にも繋がるだろう。

6. 課題解決策の自己評価

今回の研究の結果、富山の地域定着意欲の決定要因を明らかにすることができた。それらの問題解決のために具体的な提言を行ったが、提言の内容的にも学生へのイベントのPR

や交通手段の提供など、比較的实现可能性の高いものを含めることができた点が良かったと考える。

ただし、調査の前提として、そもそも県外就職が望ましくないのかどうかという問題もある。たとえば富山大学を卒業したあとで、他の地域で就労経験をして、その経験を生かして富山に戻って大きな貢献をする人がいる。富山に若い人を集めるために、富山の魅力を高め、伝えることは大切であるが、県外就職を希望する若者を応援することもまた、地域のために役立ちうるという視点は必要であろう。

最後に反省点としては、当ゼミとしては初めてのインターネット調査の実施で、学生の大学のメールアドレスに招待状を送ったものの、大学のメールを見ない人も少なくなく、調査に気づかない学生もいたことである（このため、チラシやポスターによって周知の努力をした）。また、今回希望職種に関する研究において質問項目が多く、また経済学部生に調査を絞った為、回答の少ない項目が多く、それらの項目では有意な結果を得ることができなかった。今後は今回の問題点を踏まえ、より良い調査研究ができるように努めたい。